

平成 19・20 年度 JSL カリキュラム実践支援事業実施報告書【授業実践】

実施団体名【 福島市教育委員会 】

1 学習活動の実際

(1) 学習指導要領での指導学年と領域 第 4 学年 (文及び文章の構成に関する事項)	
(2) 単元名または活動名 「文と文をつなぐ言葉の働きを考えよう」	
(3) 対象児童の実態 (1 人)	
A 児	第 4 学年 国籍 (フィリピン) 母語 (タガログ語) 在籍年数 (5 ヶ月)
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本語の力 【聞く・話す】・友達の名前を早い時期に覚えたりしていたが、10 月くらいから日常生活での会話が増えてきた。算数の分数や小数の学習では理解できると挙手して発表するなど、人前で話そうという意欲も出てきた。 【読む】・五十音の半分以上は、読むことができる。カタカナの読みを始めたばかりである。 【書く】・簡単な平仮名は書くことができる。最近は黒板に書いてあることをノートに書き写すようになっている。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 在籍学級の学習参加の様子 (領域に関する知識・技能) 国語の授業に参加することは困難を伴った。取り立てて平仮名の習得から始めている。接続語については日常会話では一般的に使用されるが、本児にとっては段階的に早すぎるので、「組になる言葉」から導入した。実物やフラッシュカードなどを活用して、言葉の意味を理解できるようにした。 ・ 学習環境 等 在籍児童も学習に意欲が持てるよう、授業の導入部を工夫して実践した。
(4) 目標	
◇【教科指導の目標】	
・ 基本的な組になる名詞 (対象児は形容詞も) を理解し、正しく使うことができる。	
◆【日本語指導の目標】	
・ 日常生活の中で使われる簡単な言葉に気付き、日本語の語彙が増える。	
・ 漢字に対する理解を深める。	

2 学習活動

指導者（学級担任）、指導補助者（国際交流協会サポーター）			
全体の時間数（1時間）			
学習活動の状況、指導内容	活動方法	指導上の留意点	有効だった指導等 ◇教科指導について ◆日本語指導について
<p>○ スッキリタイム</p> <p>1 本時のめあてをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実物の提示により、課題を明確にする。 <p>【めあて】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">組になる言葉を見つけよう</div> <p>2 課題に取り組む</p> <p>【自力解決】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 組になる言葉を選んで、ノートに書く。 <p>在籍児童用 長所：短所 上流：下流 東洋：西洋 予習：復習 暑さ：寒さ 得意：苦手 開始：終わりよう</p> <p>※できたら発展問題へ</p> <p>対象児童用 大きい：小さい 上：下 ながい：みじかい 右：左 あつい：さむい まえ：うしろ</p> <p>3 組になる言葉を発表する</p> <p>4 本時のまとめをする。</p> <p>【まとめ】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">組になる言葉には、文字が共通しているものや全く違うものもある。</div>	<p>在籍学級</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 隣の席の児童と一緒に音読させる。 ・ 実物を提示し、意味理解を図ると共に学習意欲を高める。 ・ 本児には、日常生活の中で使われる簡単な言葉を準備し、意味を確かめながら、組になる言葉を選べるようにする。 ・ 漢字をはじめて取り入れることで、漢字に対する理解も高めるようにする。 ・ サポーターの協力を得ながら、筆順に気をつけて書くことができるようにする。(ワークシート) ・ 在籍児童用と対象児童用を照らし合わせながら確認することで、別な表現の仕方にも着目させる。 	<p>◇意図的に発表の機会を与えることで、学習に対する意欲が高まった。</p> <p>◇実物を提示することにより、理解が深まった。</p> <p>◆ 日常生活で使用度の高い語彙から取り上げ、日本語の語彙が増えたことをほめることにより、日本語学習に対する意欲をさらに高めた。</p> <p>◆ サポーターの関わりを生かすためにワークシートを活用した。</p> <p>◆ まとめ時間を丁寧に行うことで、日本語の特徴をつかませようとした。</p>

3 成果

① 対象児童に対する成果

第2回研修会で教えていただいた「ながい、みじかい」などの形容詞を実物を用いて導入した。たいへん興味を持って、小さな声ながらたくさん発話することができた。課題の形容詞が身近なものだったのでよく理解できていた。一語一語五十音と対応しながら練習することが大切である。

そばにサポーターがいて、母国語でアドバイスしてくれるという体験は初めてだったが、本児にとっては嬉しそうであった。安心して学習に取り組んでいた。

② その他（他の在籍学級の児童や学校・保護者等学習環境に対する波及効果等）

○ 在籍児童に対する成果

導入で実物を用いて行った「ながい・みじかい」の学習は、在籍児童にとっても興味深く、テープを引きたいという児童が多かった。また、単なる興味関心に終わらず、そこから本時の課題である「組になる言葉」につなげることができた。

○ 学校・保護者等

保護者をお願いしたいことを連絡帳に書いても返事はないなど、なかなか連絡がとれない。電話をしてもいつも留守番電話なので、一方的にこちらの用件を伝えるだけであったが、サポーター（母語話者）を通して連絡ができることもあった。

4 課題

○ 一語一語発話しながら覚えることが大切なので、何度も使える、あるいは、ファイリングして見直せるワークシートがあるとよい。また、五十音の一覧表の活用についても手元に置くなど、工夫が必要である。